

# 広域的地域活性化計画の事後評価報告シート（1）

都道府県名： 長崎県

計画の名称： 県西部・離島地域（歴史・文化・農水産物などの地域資源と美しい沿道景観を活かした観光の活性化）

## 1) 事業の実施状況

計画の整備方針	事業区分	事業名	事業実施状況	事業未実施の理由
①歴史・文化・食など地域資源を活かした広域的観光の促進	基幹事業	刈田院川河川改修	○	
		(主) 野母崎宿線（大崎工区）	○	
		(一) 河務福江線（戸岐ノ首工区）	○	
		一般国道202号道路修繕	○	
		一般国道204号道路修繕	○	
		一般国道206号道路修繕	○	
		一般国道207号道路修繕	○	
		一般国道251号道路修繕	○	
		一般国道324号道路修繕	○	
		一般国道382号道路修繕	○	
		一般国道383号道路修繕	○	
		一般国道384号道路修繕	○	
		一般国道499号道路修繕	○	
		一般県道初瀬印通寺線道路修繕	○	
		長崎港	○	
		時津港	○	
		脇岬港	○	
		大村港	○	
		田平港	○	
		福島港	○	
		若松港	○	
		郷ノ首港	○	
		浜窄港	○	
茂木港	○			
神ノ浦港	○			
瀬戸港	○			

		池島港	○	
		早岐港	○	
	提案事業	壱岐しまづくりプロジェクト推進事業	○	
		都市と農山漁村の共生・対流促進事業	○	
		県産品フェア開催事業	○	
		長崎おさかな祭り	○	
		ながさき実り・恵みの感謝祭	○	
早岐港定期旅客船関連施設整備	○			
②美しい沿道景観の創出と歴史的資産の尊重	基幹事業	幡鉦川河川環境整備	○	
		小森川河川環境整備	○	
		一般国道202号道路修繕	○	
		一般国道204号道路修繕	○	
		一般国道383号道路修繕	○	
		一般国道499号道路修繕	○	
		平戸港	○	
	松浦港	○		
	玉ノ浦港	○		
	③環長崎港地域の都市再生	基幹事業	長崎港	○
提案事業		元船地区景観整備	○	
		長崎駅前高架広場整備	○	
		長崎港 新国際ターミナルビル整備	○	

○：計画期間中に完成 △：計画期間終了後に完成見込み -：事業を中止

## 2) 目標の達成状況

計画目標	事業効果の確認方法	指標名	従前値	目標値	評価値
歴史的、文化的遺産、沿道景観、職などの地域資源を活かした魅力ある観光地の活性化を図り、さらなる観光拠点とし、県内外から観光客を呼び込む。	計画で定めた目標指標	①観光客数	2,324万人 (H18年)	2,573万人 (H24年)	2,304万人 (H24年)
	目標指標以外の成果指標				
	その他の定性的な成果				

## 広域的地域活性化計画の事後評価報告シート（2）

### 3) 目標達成・未達成への事業の効果の影響分析

事業効果の確認方法	計画で定めた目標指標	目標指標以外の成果指標	その他定性的な成果
	①観光客数		
事業効果の発現状況	・当計画地域の観光入込客数は、平成20年の世界的経済危機後の経済不況や円高、原油価格の高騰による離島へのアクセス条件の悪化等が影響し、一時2,095万人（H20）まで落ち込んだ。当計画の一般国道202号ほか道路・港湾施設整備の完了によりアクセス性が向上し、2,304万人（H24）と回復したものの、目標値を下回る結果となった。	・なし	・なし
外部要因の影響	・平成20年の世界的経済危機後の経済不況や円高、原油価格の高騰によるアクセス条件の悪化等の影響で訪日外国人など旅行者が減少した。 ・平成23年は東日本大震災の影響により旅行者に減少が見られた。	・なし	・なし
目標達成・未達成の要因 (問題点の把握)	・道路・港湾施設整備の完了によりアクセス性が向上したが、経済不況や円高、原油価格の高騰によるアクセス条件の悪化等の影響で、H24年調査時点では目標達成に至らなかった。	・なし	・なし
目標の達成・未達成区分	A		
全体計画の総合評価	・経済不況や円高、原油価格の高騰によるアクセス条件の悪化等により一時観光入込客の減少が見られたが、道路・港湾施設等の整備の完了に伴うアクセス性の向上により、観光入込客数に回復が見られた。さらに、その後平成24年から26年にかけて観光入込客数は伸びており、H26年には当初の目標値に近い2,553万人にまで回復していることから、当計画による一定の事業効果はあったと判断できる。		

- S：計画推進による効果が確認され、評価値も目標値を上回った  
A：計画推進による効果が確認されたが、評価値が目標値には達していない  
B：計画推進による効果が確認できなかったが、評価値が目標値を上回った  
C：計画推進による効果が確認できず、評価値も目標値には達していない

### 4) 事後評価の手続き

実施体制・実施時期	・計画全体についての評価を実施主体でまとめる。
結果の公表方法	・長崎県ホームページにて公表を行うこととする。 <a href="http://www.doboku.pref.nagasaki.jp/gaiyo/jigohyouka.html">http://www.doboku.pref.nagasaki.jp/gaiyo/jigohyouka.html</a>

## 広域的地域活性化計画の事後評価報告シート（3）

### 5) 今後の活性化方策の検討

#### ①未達成目標の改善方策

計画で定めた目標指標	目標の達成状況	改善方策
観光客数	A	交通拠点整備及び拠点施設間のアクセス改善を引き続き推進し、観光活性化を図る。

#### ②今後の広域的地域活性化方策

九州各県と広域に連携したプロジェクトを推進し、継続的な発展を目指す。  
 また、成長著しいアジア地域と地理的優位性がある本県の特徴を活かし、周遊性・回遊性を高めるため、海路整備（港湾）と陸路整備（道路）の相互アクセス向上に努めるとともに、県内外の地域間連携や交流促進を図る事業を推進していく。  
 観光部局等と連携したソフト事業を活用して、人流・物流の活性化を図っていく。

### 6) フォローアップ

計画目標	フォローアップが必要な目標指標	フォローアップ時期	フォローアップの公表方法

## 参考資料：事後評価におけるチェック項目

### I. 事後評価の内容

①事業の実施状況	チェック欄
事業（基幹、提案、関連）の実施状況が明らかにされている。	■
拠点施設及び重点地区における拠点施設整備事業については、基幹事業の一体性が確認されている。	■
当初見込んだ事業効果の発現状況が明らかにされている。	■
拠点施設の整備を伴う計画の場合（法第2条第3項第1号）、当該事業が実施された。	<input type="checkbox"/> 該当しない
他の事業との連携等による、相乗効果・波及効果について記載されている。	■
②目標の達成状況の整理	
広域的特定活動の状況を踏まえた目標の達成状況が記載されている。	■
指標・数値目標により、目標の達成状況が表現されている。	■
計画で定めた目標指標以外の成果指標について、指標・数値目標がわかりやすいものとなっている。	<input type="checkbox"/> 該当しない
評価のわかりやすさや中立性を損なわない範囲で、指標・数値目標以外の方法によっても、目標の達成状況に関する評価がなされている。	■
事後評価の時点で目標指標の計測が困難な場合、フォローアップの実施時期が明確にされている。	<input type="checkbox"/> 該当しない
目標の達成状況に影響を与える主な外的要因が把握・整理されている。	■
③目標の達成・未達成要因の分析、評価	
拠点施設が広域的特定活動の拠点としての機能を果たしている。	■
事業内容と指標・数値目標との整合性が確保されている。	■
地域資源の活用やハード・ソフトの連携等が図られている。	■
拠点施設での広域的特定活動が計画どおり実施されている。	■
民間事業者等の多様な主体との連携が図られた。	■
外的要因の影響を踏まえた評価となっている。	■
④今後の広域活性化方策の検討	
評価内容を踏まえた今後の改善策や更なる取り組みの方針が明確となっている。	■
今後の改善策や更なる取り組みの状況を明らかにするフォローアップの計画が示されている。	■

### II. 事後評価の手続き

第三者（学識者等）による評価委員会で検討されるなど、適切な体制で評価が実施されている。	■
交付金等の制度の効果的・効率的な活用を広く国民に明らかにし、また、分かりやすい方法で確認することができるよう、適切に公表がされている。	■